

関西大学高等部・中等部 2021年度学校評価報告書



2022年3月

目 次

1	本校の概要	1
2	今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策.....	1
3	アンケートの実施状況.....	9
4	アンケート結果の分析.....	10
5	学校関係者評価委員会からの評価結果.....	11
6	校長の意見書	14
7	アンケート結果.....	15

1 本校の概要

(1) 沿革

2010 年 4 月

高槻ミュージックキャンパスに関西大学の 3 つめの併設校として開校。関西大学の学是である「学の実化」（学理と実際との調和）の理念に基づき、初等部・中等部・高等部の 12 年一貫教育を実践。

2014 年～2018 年

高等部では「持続可能な地球環境の構築に対するイノベーターの創生」を掲げ、文部科学省からスーパーグローバルハイスクール（SGH）として採択される。

2018 年 1 月開催の「SGH 甲子園 2018」において、ラウンドテーブルディスカッションの部で優秀賞を受賞。

その実践をさらに深化させ、国連の提唱する SDGs の活動にも参加。

2019 年

開校 10 周年を迎える。

2020 年

新たな次の 10 年へ

(2) 建学の精神、教育理念・教育方針・教育目標等

初等教育から高等教育までの一貫教育を同一キャンパスで実践することのメリットを最大限に活用し、個人の成長段階を継続的に把握しながら、「確かな学力」、「国際理解力」、「情感豊かな心」、「健やかな体」を発達段階に応じてバランスよく高めることにより、人間力の基礎となる部分を養い、高い倫理観と品格を有した「高い人間力」を持つ人材を育成する。また、課題発見・問題解決を促す体験型の授業により、自ら考え、自ら行動しながら、学んだ知識を実際に応用することで知恵へと昇華することができる能力を養う。これにより、多様な価値観を尊重しながら、共生の道を模索することができる、ユニバーサル（全世界的、万人に通じる、普遍的）な視野を持つ「たくましく」、「しなやかな」人材を育成する。

2 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策

(1) 重点目標①：確かな学力の定着と向上、進路希望の実現

達成状況の目安：(◎)大幅達成・(○)達成・(△)未達成・(×)大幅未達成

取組計画及び評価指標 (Plan)	自己評価
ア 中等部では、家庭学習の定着と学習の基礎基本の徹底を図る。特に、スローラーナー	<p>【取組状況 (Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校全体で感染症予防を講じながら、ICT 環境も活用し、学びを止めることなく、教育活動を継続した。

<p>の学力向上を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力推移調査の校内分析会を開催し、具体的な対策を検討。 ・各定期考査及び学力推移調査の成績不振者に対して個別指導等のフォローを行う。 ・学力向上に関して、生徒アンケート設問9の肯定的回答（1・2）が70%以上。 ・スローラーナーへの対応に関して、生徒アンケート設問12の肯定的回答（1・2）が60%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中等部では学力推移調査の学習実態データを学年毎に毎集約し、個々の状況に応じ、質問対応などの指導を行った。また、教科担当と連絡を取り合い、指導すべき点の情報共有を行った。 ・昨年度から開始した外部業者による個別指導については、コロナ禍による感染症予防のため対面実施ではなく、オンライン指導を継続している。 <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力推移調査結果の分析方法の研修会(5月ベネッセより招聘)を開催し、学力向上のために教科担当と学年が連携し、個別に指導した。 ・成績不振者に対して、学年と教科担当者の連携を行い、個別に対応できた。 ・中等部生徒のアンケート結果からは、設問9「授業を通じ、自分の学力は向上していると感じますか」では、1・2の肯定的回答が昨年度の83.4%から今年度は86.7%と上昇しており、目標を達成した。 ・設問12「補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがあると感じていますか」では、1・2の肯定的回答が昨年度の70.1%から今年度は73.7%と上昇しており、目標を達成した。 <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>家庭学習の定着が課題である。スローラーナーへの指導・支援を進めていきたい。学校での学力到達目標に向けて取組を学年毎に策定し、取り組んでいきたい。</p>
<p>イ 高等部ではキャリア教育の充実を図り、ミスマッチの無い進路実現を目指す。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西大学学部説明会の積極的な参加を促し、一人あたり2学部以上の参加。 ・大学進学の情報提供に関して、生徒アンケート設問8の肯定的回答（1・2）が70%以上。 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月に高等部1～3年生で法学部に興味のある生徒を対象に法学部連携セミナーを開催した。 ・コロナ禍の影響により、7月の関西大学学部説明会はオンラインでの実施となった。 ・8月に高等部1年生を対象に校内で社会安全学部連携プログラムを実施した。 ・11月に高等部1年生が千里山キャンパスで関西大学の大学説明会に参加した。

	<p>【達成状況 (Check)】 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西大学学部説明会について、オンラインでの開催となったこともあり、学年全体として一人あたり2学部以上の参加(視聴)を行うことができた。 ・大学進学の情報提供に関して、設問8「関西大学やその他の大学に関する情報が増え、大学進学モチベーションが上がってきましたか」の1・2の肯定的回答が昨年度の82.0%から今年度は77.9%と下降したが、70%以上の目標は達成した。また、設問22の「高大(あるいは中大、中高の学校同士)の教育連携があると思いますか」についても、1・2の肯定的回答が昨年度の74.6%から今年度は75.0%と上昇した。
	<p>【今後の改善方策 (Action)】</p> <p>高等部の学則定員は144名、高等部から内部進学する関西大学各学部の総定員数は128名となっており、毎年10数名が他大学等に進学することになる。他大学等への進学者は、難関国立大学等への進学者や本年度は医学部合格4名と、学力低位層の他の大学等への進学者に大きく二分され、進学指導の必要度が増加した。今後、学力低位層の底上げのための指導を進めることが必要である。</p>
<p>ウ 併設校としての使命である関西大学への進学数を増やす。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査や個人懇談、三者懇談を実施し、生徒の志望状況を把握。 ・関西大学への内部進学希望者100名以上。 ・関西大学への内部推薦の合格率95%以上。 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況 (Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部1年生は7月に進路適性検査を実施し、進路希望調査は高等部1～3年生を対象に9月に実施した。 ・それを基に生徒個人面談、7月及び12月には保護者を交えての三者面談を実施するなど、各学年で適宜個別に面談を繰り返し実施した。 <p>【達成状況 (Check)】 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査を9月に実施。三者面談は7月、12月に実施した。加えて、学年ごとに日常的に面談を実施し、生徒の志望状況を把握している。 ・学年団・進路指導部の尽力もあり、関西大学への内部進学希望者は106名となり、目標を達成した。 ・内部推薦の合格率は100%を達成した。

	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>進路希望調査、面談を継続して実施していき、関西大学各学部に進学するため、各学部の成績の目安に応えられるように中等部同様、学校での学力到達目標にむけて取組を学年毎に策定し、学力向上に努めなくてはならない。</p>
--	--

(2) 重点目標②：個性を伸ばす教育の実践とルールの遵守

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 探究学習の深化、充実を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部「プロジェクト基礎」「プロジェクトゼミ」での外部講師の積極的な活用。今年度開講の全20ゼミで外部講師を登用。 ・中等部「考える科」「総合的な学習の時間」及び高等部「プロジェクト基礎」「プロジェクトゼミ」での積極的なフィールドワークの実施（各学年で年1回以上）。 ・探究学習とSDGs活動との連携を深めるため、梅田キャンパスにて、高等部主催の「SDGs フォーラム」を開催。 	<p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部「プロジェクト基礎」、「プロジェクトゼミ」での外部講師の積極的な活用を行った。今年度開講の全20ゼミで外部講師を登用した。 ・コロナ禍の影響で、高等部1年生「プロジェクト基礎」における関西大学研究室訪問フィールドワーク及び研究機関(企業・外部団体等)へフィールドワークは中止とした。また、高等部2年生のハワイへの研修旅行についても中止とした。 ・中等部の「考える科」及び「総合的な学習の時間」において、2月に対面とオンラインを併用した総合学習発表会を開催した。 ・高等部のSDGsフォーラムについても、コロナ禍により中止とした。 <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度開講の20ゼミで外部講師を登用し、目標を達成した。 ・中等部「考える科」、「総合的な学習の時間」、高等部1年生「プロジェクト基礎」は対面で実施した。高等部2年生「プロジェクトゼミ」ではコロナ禍の影響でフィールドワークなどの多くの活動を中止せざるを得ない状況であったが、生徒はICT機器を活用しながら、探究学習を進めた。中等部の総合学習発表会も感染症予防を講じながらアリーナでの対面開催とオンラインによる動画配信のハイブリッド方式で開催することができた。 ・「SDGs フォーラム」については、コロナ禍によりやむなく中止とした。 ・2月に実施された「サステナブル・ブランド国際会議 2022 横浜」で上位3校に選ばれた。

	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>開校以来本校の特色の一つとして位置づけている探究学習であるが、プロジェクト学習における論文作成等の課題も上がってきているので、今後も学習内容や指導方法について検討していきたい。</p>
<p>イ ICT 機器を活用した先進的教育活動を取り入れる。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向けに ICT 研究及び ICT モラル研修を年 1 回以上開催。 ICT 教育推進委員会において、ICT 機器を活用した先進的教育活動の方向性を検討。 ICT 環境の活用に関して、教員アンケート設問17の肯定的回答（1・2）が70%以上。 	<p>自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向けに ICT 研修及び ICT モラル研修を 7 月に実施した。 ICT 教育推進委員会において、ICT 機器を活用した先進的教育活動の方向性を検討し、今後の方向性を確認した。 コロナ禍による学級閉鎖時には、ICT 機器を活用し、オンライン学習に取り組んだ。 <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒対象のICT研修及びICTモラル研修を 7 月に実施し、目標を達成した。 コロナ禍による学級閉鎖時には、Google Classroomによる課題提示や提出等、生徒との双方向のやり取りやZoomを活用したオンライン学習で対応した。 設問17「液晶ディスプレイや PC など充実した ICT 環境を活用し、授業内容の工夫に取り組んでいる」の 1・2 の肯定的回答が昨年度の86.8%から今年度は87.5%と上昇しており、目標を達成した。 <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>ICT 機器の活用は本校が開校以来進めてきたものであり、教科の特性、生徒の成長過程等に留意しながら、中等部、高等部いずれの授業においても、必要に応じて iPad やパソコン、教室のプロジェクター画面を活用して授業を行っている。今後も継続して、ICT モラルについては知識、運用の指導を進めていきたい。</p>
<p>ウ 国際理解教育の充実を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中等部、高等部とも全員参加の海外研修以外の海外交流活動を積極的に展開する。 海外交流校の増加に向けた取 	<p>自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍により、中等部 3 年生のカナダ研修旅行、高等部 2 年生のハワイ研修旅行も中止とした。 海外交流校の増加を目指し、関西大学国際部及び各国領事館等に問い合わせを行い、情報収集・分析を行った。 海外交流校とのオンラインによる交流を行った。

<p>組を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際理解に関して、生徒アンケート設問21の肯定的回答（1・2）が70%以上。 ICTを活用した海外交流活動を積極的に進める。 	<p>【達成状況 (Check)】 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際理解教育に関しては、コロナ禍により、対面交流の積極的展開は実現できなかったが、シンガポール、台湾の交流校とのオンライン交流会を行った。 アンケート設問21「異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していく力がついてきましたか」の1・2の肯定的回答は、中等部85.6%、高等部82.1%と目標を達成した。 国際理解教育部が中心となり、希望者を対象に韓国観光公社の韓国オンライン修学旅行や一般社団法人 Atlantic Pacific Japan 主催のイギリスオンラインサマーキャンプ等を案内し、多数の生徒が ICT を活用した海外交流活動に参加した。 Global 教育ウェビナーに参加した。 オンラインでの交流活動のメリット、デメリットが見え、アフターコロナを見据え、今後の活動の指針となった。 <p>【今後の改善方策 (Action)】</p> <p>コロナ禍の終息が見えない中、しばらくはその影響は続くと考えられるが、アフターコロナを見据えて更なる国際化を推し進めていきたい。また、オンラインでの交流も併用しながら、更なる充実発展を図っていきたい。</p>
<p>エ 基本的な生活習慣を確立させる。特に、時間厳守と挨拶の励行に力を注ぐ。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 月ごとの遅刻数を把握し、多回数の子生徒に対して個別指導。 基本的な生活習慣に関して、生徒アンケート設問19の肯定的回答（1・2）が70%以上。 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況 (Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の出欠・遅刻については、毎朝、授業担当者が出席をとり、端末に入力する形をとっている。各学年、担任が任意で最終時間終了後にホームルームを実施しているクラスもある。 遅刻が多数回の生徒には、個別に基本的な生活習慣確立に向けて指導を行った。 挨拶と時間厳守については、校長が毎朝正門で挨拶を行い、必要な指導を行った。 <p>【達成状況 (Check)】 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 月ごとの遅刻数を把握し、遅刻回数が多い生徒に対し、担任・学年主任を中心に個別指導を実施した。 アンケート設問19「基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの仕方を学びましたか」の1・2の肯定的回答が中等部は85.6%、高等部は82.0%という結果であり、中等部生・高等部生とも基本的な生活習慣が概ね身についていると

	思われる。
	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>中等部の10分間読書、高等部のモジュール学習の時間、及び中等部・高等部の朝礼、終礼を廃止して3年目になる、生徒の基本的な生活習慣の確立を促すため、これらに代わる良い方策を模索していきたい。</p> <p>また、今後は遅刻、早退等の出席状況だけではなく、出席状況から見えてくる生徒の現状について生徒指導部、各学年の生徒指導係を中心に情報を共有し、生徒の状況把握に繋げていきたい。</p>

(3) 重点目標③：教職員のさらなる資質向上及び業務の相互協力の推進

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 授業力の向上を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究授業を実施。 ・週1回以上の校長による校内見回り、授業参観の実施。 	<p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月に教員間の公開・研究授業を実施した。 ・校長の授業参観(巡視)を実施した。 ・課題配信やオンライン授業については、各教員がGoogle ClassroomやZoom等を活用し、創意工夫を凝らし実施した。 <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月に校内での公開・研究授業週間を設け、実施した。 ・校長の授業の見回り、授業参観の実施は、ほぼ毎日実施した。 ・教室内に入り、授業を参観するなどの取組も行った。 <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>今年度は、原則対面授業を維持してきたが、オンライン授業での教材の進行状況や生徒の理解・定着度を把握できる仕組みを各教科の意見を聞きながら、検討していくことが必要である。</p>
<p>イ 教員研修の充実を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT研修を年1回以上実施。 ・人権研修を年1回以上実施。 ・研修体制に関して、教員アンケート設問31の肯定的回答(1・ 	<p>自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員向けのICT(Zoom等)に関する研修は実施できなかった。 ・人権意識と実践力向上のために、人権教育部会が中心となって本校の生徒の実態にあった内容及び招聘する講師について検討し、研修会を実施することができた。 ・教員対象人権研修会を6月・10月に実施した。

<p>2) が60%以上。</p>	<p>【達成状況(Check)】 (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員それぞれが ICT (Zoom 等) に関する知識を身につけ、横のつながりで伝え合い、教え合いすることで研修は実施しなかった。 ・教員対象人権研修会を6月と10月に実施した。人権研修会により、人権意識の向上につながったのではないかと考える。 ・教員アンケートの設問31「本校は、教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実している」の1・2の肯定的回答が、昨年度の39.5%から今年度は46.9%と上昇したが、目標の60%には達していない。ため、引き続き、改善の取組を進めていきたい。
<p>ウ 業務のマニュアル化、改善を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務のマニュアル化の方策を校務運営委員会にて検討。 ・教科、校務分掌毎のマニュアル化の推進。 ・超過勤務時間の削減(2020年度から全体で5%減)。 	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>人権研修の実施回数については目標値を達成したが、ICT研修の機会を持つことができなかった。次年度に向けて教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための教員の研修については、各部主任と調整しながら今後も機会を作っていくたい。</p> <p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務のマニュアル化の方策について、校務運営委員会にて呼びかけた。 ・教科、校務分掌の業務連携や引き継ぎをスムーズに行えるよう、マニュアル化を推進した。各学年・教科・校務分掌毎のデータフォルダに業務を記録し、教職員の誰もがデータ共有・閲覧できるようになっている。 ・各種会議の開催については、各学年・各分掌主任の采配(時期・業務内容等)により設定し、業務の削減に繋げている。 <p>【達成状況(Check)】 (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務のマニュアル化の方策について、校務運営委員会にて呼びかけはしたものの十分な成果は上げられなかった。しかし教科、校務分掌毎のマニュアル化は推進した。 ・超過勤務時間の削減については、コロナ禍による休校・学級閉鎖等のため、2020年度と集計条件等の差異があり、一概に比較検討はできなかった。しかし教員の働き方については協議を重ね、業務の効率化、超過勤務の削減に向けて一定の方向性ができた。

	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の回数、内容（案件の精査等）について更なる精査に努めていきたい。 ・教員の働き方の改善と生徒に対する教育効果の向上を両立できるよう、様々な業務での引き継ぎ、マニュアル化や電子化を推進し、効率化を図っていきたい。
<p>エ ミドルリーダー（各主任）の育成と裁量拡大の推進及び教員間の協力体制の構築。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミドルリーダーの育成と裁量拡大について、校務運営委員会等を活用し、具体的方策を検討する。 ・教員間の協力体制に関して、教員アンケート設問5の肯定的回答（1・2）が60%以上。 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年・各分掌のそれぞれの主任が裁量を発揮し、学校運営に参画している。 ・教員間相互の報告・連絡・相談を徹底している。 <p>【達成状況(Check)】（△）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員アンケートの質問5「教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている」の1・2の肯定的回答は昨年度の44.7%から今年度は46.9%と上昇したが、目標の60%には達していないため、引き続き、職場の信頼関係を構築していくための施策に取り組んでいきたい。 ・コロナ禍への対応を優先したため、校務運営委員会等の会議体でミドルリーダー育成のための十分な具体策を検討することができなかった。 <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>開校以来10年以上が経過し、開校時の第一世代教員との世代交代が始まっている本校の現状を踏まえ、中堅教員が学校運営に携わり、それらをベテラン教員がバックアップできるように、また、ベテラン教員がスキルや経験を伝授していくための機会確保の方策を検討したい。</p>

3 アンケートの実施状況

本年度も、アンケートの実施には Google フォームを使用したことで、アンケート用紙の配布・回収の作業がなくなり、集計も容易になった。全体的に業務の簡便化を図ることができた。

(1) 生徒の評価

11月上旬に中等部・高等部ともに「学校生活全般」に関するアンケートに学校評価共通項目を盛り込んで実施した。回答率は、2020年度 91.3%、2021年度 88.2%であった。

(2) 保護者の評価

11月上旬に中高等部の全保護者を対象に実施した。回答率は、2020年度 87.5%、2021年

度 77.7%であった。

(3) 教員の評価

11月上旬に中高等部の教員を対象に実施した。回答率は2020年度76.0%、2021年度66.0%であった。

4 アンケート結果の分析

以下、(1)「そう思う」…1、(2)「どちらかと言えばそう思う」…2、(3)「どちらかと言えばそう思わない」…3、(4)「そう思わない」…4と表記する。

(1) 生徒アンケートについて

生徒アンケートの結果は、設問1「学校生活は楽しいと感じていますか」では1・2の肯定的回答が中等部92.5%、高等部91.6%であり、設問2「この学校に入学してよかったと思いますか」では中等部90.9%、高等部87.0%と昨年度と同様に高い評価となっている。我々、学校側としてはこの上ない喜びである。

次に、学習に関する設問9では、1・2の肯定的回答は中等部86.7%、高等部83.1%であり、設問11では中等部76.7%、高等部77.7%、設問12では中等部73.7%、高等部72.8%、設問13では中等部81.5%、高等部82.3%と、どの設問でも概ね70~80%を超える高い評価となっている。本校の生徒の学習に対する指導、取組に一定の成果があるとみてよいであろう。

また、「補習授業で適切なフォローをしてもらえると感じていますか」の設問12に関しては、1・2の肯定的回答が中等部生で2020年度70.1%、2021年度73.7%、高等部生で2020年度63.3%、2021年度72.8%といずれも上昇しており、外部業者による個別指導導入などの取組の成果が徐々に現れている。

(2) 保護者アンケートについて

保護者のアンケートでも、設問2「この学校に入学させてよかったと思われませんか」には肯定的回答1・2が中等部87.1%、高等部89.0%と、生徒の評価と同様に中等部・高等部ともに高い満足度を得ている。学力に関する設問9「本校は学力向上のために組織的な取組を行っていると思われませんか」についても、肯定的回答1・2が2020年度は中等部69.8%、高等部70.4%に対して、2021年度は中等部72.5%、高等部72.1%といずれも上昇しており、本校の取組に対して一定の理解と評価はいただいている。

また、スローラーナーへの対応に関する設問14に関しても、肯定的回答1・2が2020年度の中等部55.2%、高等部55.4%に対して、2021年度は中等部60.7%、高等部62.6%とそれぞれ肯定的回答が上昇しており、こちらも、本校の取組に対して一定の評価はいただいていると理解できるが、高い評価とは言い難く、更なる取組を進めていきたい。

設問25「初等部と中等部・高等部との連携が十分に行われていると思われませんか」の初等部との連携に対する評価については、肯定的回答1・2が中等部53.2%、高等部62.3%で昨年度と同水準の低い結果となった。今年度も、コロナ禍により思うような連携事業が実施できなかったが、次年度以降更なる連携を構築していかねばならないと考える。

(3) 教員アンケートについて

設問4の「職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている」に関しては3（どちらかと言えばそう思わない）・4（そう思わない）の回答が2020年度の77.8%から2021年度は90.7%となっており、会議の運営方法や効率化に関しては早急な対応が必要であると認識している。

設問5の「教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている」では1・2の肯定的回答は2020年度44.7%、2021年度46.9%と若干上昇したが、引き続き、取組を進めたい。

設問6の「管理職と教員との間で相互理解と信頼関係を築いている」の肯定的回答1・2が2020年度の34.2%に対して、2021年度は18.8%と大幅に減少した。管理職として、この評価を受け止め、改善に努めたい。

設問13の「学力向上のための組織的な取組を行っている」の肯定的回答1・2は、2020年度44.7%、2021年度46.9%、設問14の「生徒が人生のロードマップを描き、逆算して大学や学部を選び、主体的に進路に向けた準備をするための組織的な指導がなされている」の肯定的回答1・2は、2020年度50.0%、2021年度62.5%、設問15「生徒が主体的で対話的な深い学びを行い、思考力を高めるための授業作りを組織的に行っている」の肯定的回答1・2は、2020年度51.3%、2021年度51.6%と若干の上昇が見られるが、全般的に及第点とは言えず、課題が残る結果となった。本校に適した解決策を模索していきたい。

一方、設問18「学力不足生徒へのフォローのために補習授業や個人指導を行っている」の肯定的回答1・2については、2020年度71.0%、2021年度71.9%で肯定的な回答が7割を超えており、生徒及び保護者のアンケート結果とも符合する結果となった。

アンケート結果全体を踏まえ、今後も教員の結束力を高め、組織的な教育活動、取組を行うための方策を検討していきたい。

5 学校関係者評価委員会からの評価結果

(1) 自己評価の結果を受けて

ア 重点目標①「確かな学力の定着と向上、進路希望の実現」について

- ・学力の定着と向上に関して、高槻市の公立中学校でも、定期テストが20～30点以下の生徒には放課後に補習等を行い個別に指導しているが、家庭学習の定着が課題となっている。宿題を多く出したり、課題プリントを個別に課したり、様々な方法で家庭学習の定着を目指している。
- ・高槻市でも、小学校と中学校との連携を積極的に進めているが、家庭での学習習慣の定着は小学校から取り組む必要があり、特に算数や国語の基礎の学習に力を入れてもらえるよう中学校から小学校の先生方に働きかけている。
- ・初等部・中等部・高等部の12年一貫教育の中で、スムーズな移行も大切であるが、初等部から中等部への進学時に違いを意識してもらうことも大切であり、この辺りのバランスをうまく取っていただきたい。
- ・補習授業などのフォローに関して、生徒の肯定的評価が7割を超えているのに対して、保護者の肯定的評価が6割となっている。学校の取組が保護者に十分に伝わっていないので

はないかと感じている。先生方から保護者に情報提供を行っていただくなど、積極的にアピールしていただければ、この評価も良い方向に変わってくるのではと感じている。

- ・キャリア教育に関して、コロナ禍ではあるが、中学生に職業体験の機会を与えることが、大切であると感じている。様々な体験を通じて、将来の選択肢を示すことで、子どもたちも刺激を感じることができる。高槻市の中学校でも、高校生に学校に来てもらって、自らの体験を語ってもらうなどの取組も行っている。
- ・今年度は、コロナ禍でも学校閉鎖を行わず対面での授業を継続していただけたことは、様々な意見はあると思うが、保護者としては学習機会の確保の面からも大変有り難く思っている。
- ・コロナ禍での学級閉鎖中もGoogle Classroom等による課題の提出等、学習の機会を確保いただき、子どもたちは自宅での学習習慣を維持できていた。自宅待機の生徒に対して、定期考査前に個別にフォローしていただくなどの対応をしていただけると更に良かったのではと感じている。

イ 重点目標②「個性を伸ばす教育の実践とルールの遵守」について

- ・個性を伸ばす教育に関して、「サステナブル・ブランド国際会議2022横浜」において、高等部が上位3校に選ばれたとのことであるが、このように表彰されるなど、外部から評価されることは、生徒にとっても大きなモチベーションになると思われる。子どもたちにとって、小さなことでも成功体験を得ることは非常に大切であると感じている。中間層の生徒が成功体験により、モチベーションを上げることにより、学校・集団としての全体の質も向上していく。
- ・「サステナブル・ブランド国際会議2022横浜」に参加した生徒は、自ら参加を希望したとの報告があったが、まさに「考動力」を体現している。このような積極的な取組が、教科学習にも繋がり、学校全体にも良い影響が広がっていくのではないかと。
- ・コロナ禍により、中等部3年生のカナダ研修、高等部2年生のハワイ研修が中止となったが、代替として国内で修学旅行を実施いただき、先生方のご尽力に保護者は非常に感謝している。
- ・国際理解教育の充実に関しては、コロナ禍ということもあり、対面での交流は難しい状況であったと思うが、オンラインを活用した交流を積極的に実施されるなど、新たな取組も進められているとのこと、先生方も大変ご苦労されたのではないかと。

ウ 重点目標③「教職員のさらなる資質向上及び業務の相互協力の推進」について

- ・授業力の向上に関しては、高槻市の公立中学校では学校にもよるが、20～30代の若手教員が多く、経験のある40代後半から50代の教員が少ない状況となっており、大変苦勞している。今年度は中学校の新学習指導要領の完全実施となり、新学習指導要領の内容を理解するよう指示し、教科会議で評価基準を策定した。今年度も授業見学週間を設定し、教員相互で授業見学を行うことで、教員の授業に対する意識が高まった学校が多かったと感じている。
- ・ミドルリーダーの育成に関して、30代の若手教員が学年主任を担っているが、校長として

逐一指示することはせず、現場の教員に任せることで、本人も責任を感じて頑張ることができる。一方で報連相を徹底し、組織で対応するようにもしている。ミドルリーダーをしっかりと育成していかないと学校運営上、厳しい状況となる。

- ・若い教員は発想が豊かで、様々な提案をしてくれる。それぞれの校務分掌長が責任を持って業務にあたるということが必要で、頑張って成果が出れば、子どもと同じでしっかり評価して褒めるようにしている。
- ・保護者の理解や協力を得られると学校の仕事がやりやすくなる。保護者や生徒と信頼関係をしっかりと築くことが重要となると感じている。
- ・教育研修の充実、業務のマニュアル化、ミドルリーダーの育成等、達成状況が未達成（△）となっている取組計画については、ぜひとも具体的な対策を講じて、改善を進めていただきたい。

（２）アンケート結果について

- ・「学校生活は楽しいと感じていますか」の肯定的な評価が中等部・高等部とも、9割を超えているということ自体が素晴らしい。他の質問についても、生徒・保護者とも全体的に肯定的な評価の割合が高く、先生方が生徒にしっかりと向き合われている結果が表れているのではないかと。
- ・教員アンケート結果の中で、「教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。」や「管理職と教員との間で相互理解と信頼関係を築いている。」など、肯定的評価が低い項目があるが、教員のコミュニケーション力の問題が大きいと感じている。公立学校でも、コミュニケーションがしっかり取れない教員が多く、どこの学校でも、アンケート評価は低くなっている。教員間のコミュニケーション改善のため、報連相の徹底を指導している。
- ・生徒アンケートの「補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。」の結果で、中2の肯定的評価が他の学年に比べて、かなり低くなっている。中1は小学校の延長でもあり、いよいよ中2から学習内容が難しくなってくるなど、重点的な指導や声掛けが必要な学年と認識する必要があるのではと感じている。このような貴重なデータを活用しながら、生徒への指導を行っていただければと思う。
- ・中2は、入学時からコロナ禍による休校などの影響を受けている学年でもあるので、公立中学校でも、同じような状況が見られる。
- ・初等部と中等部・高等部との連携に関しては、教育後援会として、初等部と中高等部で連携事業を開催するなどの取組を進めている。
- ・生徒アンケートの「将来やりたいことが見つかри、それに向けて逆算をして準備を始めていますか。」の回答結果が、他の学年に比べて、高3の肯定的評価が非常に高くなっている。これは、関西大学入学に向けた様々な説明会等によるものと認識している。中等部の先生方が初等部の6年生の授業を行うなどの取組により、保護者の初等部・中等部の連携への認識も変わってくるのではないかとと思う。

[学校関係者評価委員会委員名簿]

氏 名	所属及び役職
檜 山 裕美子	高槻市立中学校校長会 会長
橋 本 欣 也	関西大学中等部・高等部教育後援会 会長
城 下 英 行	関西大学社会安全学部 准教授 ※評価結果とりまとめ執筆者
井 尻 誠	関西大学中等部・高等部 校長

6 校長の意見書

関西大学中等部・高等部
校 長 井 尻 誠

本年度のアンケート結果から、中等部・高等部ともに、生徒が「入学してよかった」、「学校生活は楽しいと感じている」、保護者からも同等の評価を頂いており、この結果は昨年度に引き続き我々学校にとっては大変嬉しいことであり、また感謝すべき事である。

学校関係者評価委員（以下、委員）からは、重点目標①：「確かな学力の定着と向上、進路希望の実現」について、オンライン学習、授業への取組を評価頂いている。委員の方からのご指摘もあるように初等部との連携・接続について、一歩踏み込んだ議論が必要であると考えます。また本校の取組を積極的に保護者へ情報提供を進めていきたい。重点目標②：「個性を伸ばす教育の実践とルールの遵守」に対して、委員からは、「サステナブル・ブランド国際会議 2022 横浜」において、高等部が上位 3 校に選ばれたことについて、「まさに、考動力を体現している。このような積極的な取組が、教科学習にも繋がり、学校全体にも良い影響が広がっていくのではないかと」と大変高い評価を頂いている。コロナ禍においても「学びを止めない」ことに関して保護者の方からも、評価いただいた、先生方の尽力に感謝したい。重点目標③：「教職員の更なる資質向上及び業務の相互協力の推進」については、「教員間の報告・連絡・相談（報連相）の徹底やコミュニケーションの重要性」及び「教員と生徒・保護者との信頼関係の構築の重要性」について、委員からご意見をいただいた。生徒の成長を一心に考える集団としては欠かすことができないことである。ベテラン教員がバックアップし、校務を円滑に遂行できるように責任を持ってミドルリーダーの先生方が活躍できるような組織、力のある集団になるように期待したい。

昨年度も委員からご指摘頂いた、本校内の教員研修のみならず、併設校間の教員交流についてはコロナ禍も合わさり実施できなかった。継続した今後の課題である。

2010 年の開校以来、早 12 年目に入り、今後も創設の理念、本校の教育目標を具現化すべく、本校独自の教育活動を実践していきたい。私立学校という視点からは、時代の趨勢を読み、求められるものを打ち出していくことが必要であると考えます。そのためには現場が抱える様々な課題に対し検討を重ね、スピード感を持って改善していかなければならないと考えます。

「答えの無い時代」ではあるが、「変えるもの」「変えないもの」を不易流行の精神で、関西大学の併設校である矜恃を持ち、優秀な生徒を関西大学に送り出していかななくてはならない。また、アフターコロナを見据えて、現在実践している活動も精査し、新たな取組も視野に入れていきたい。

以 上

7 アンケート結果

2021年度 学校評価アンケート集計結果（生徒用／保護者用／教員用）

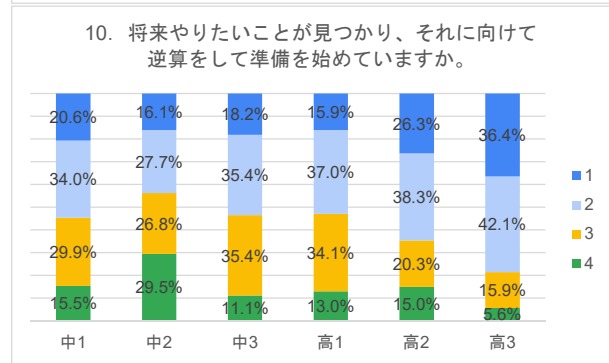
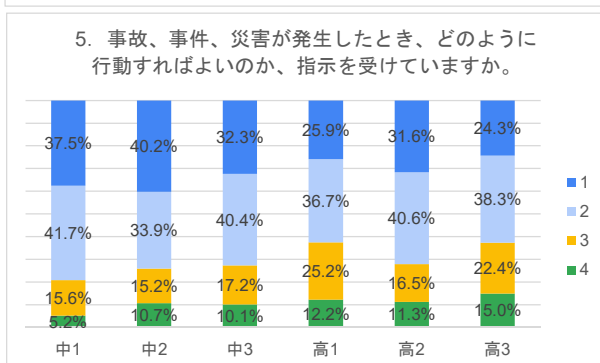
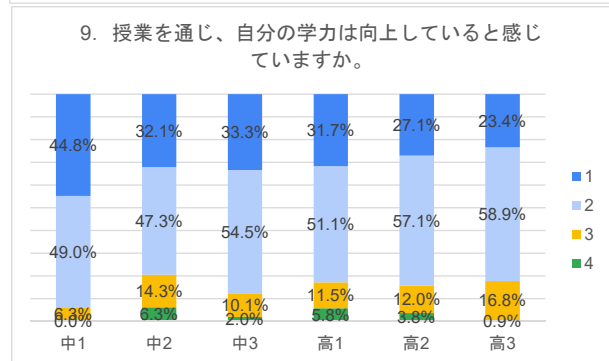
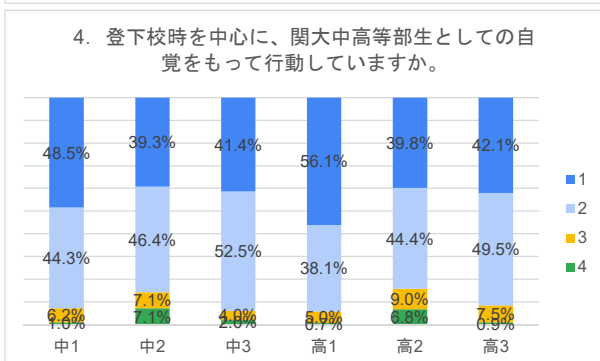
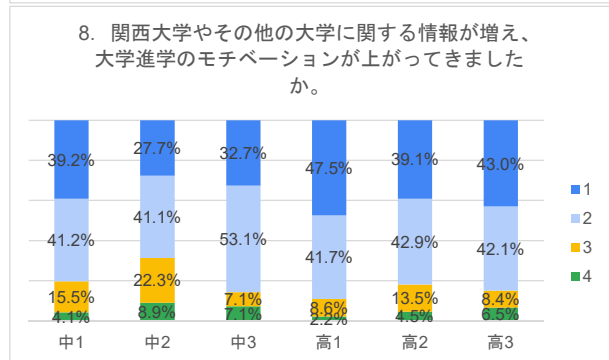
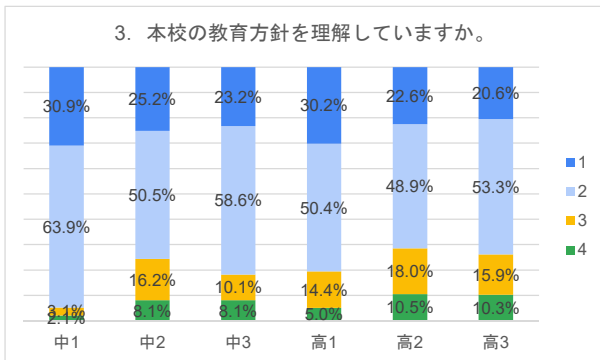
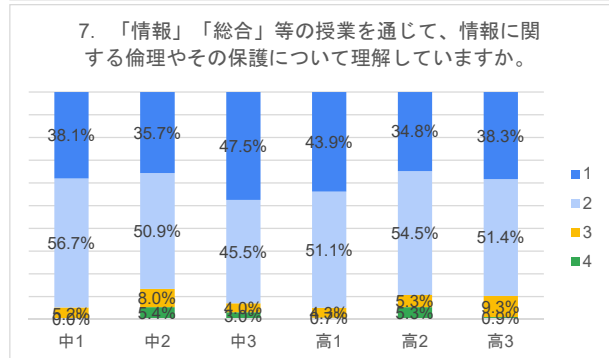
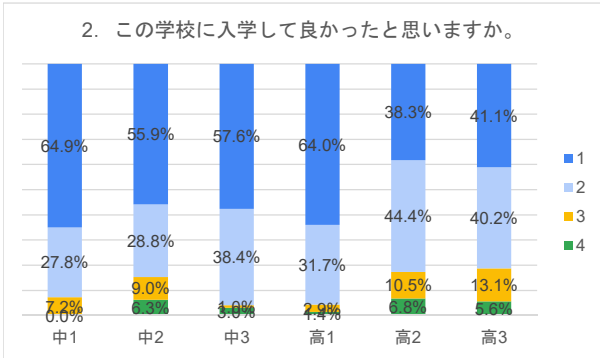
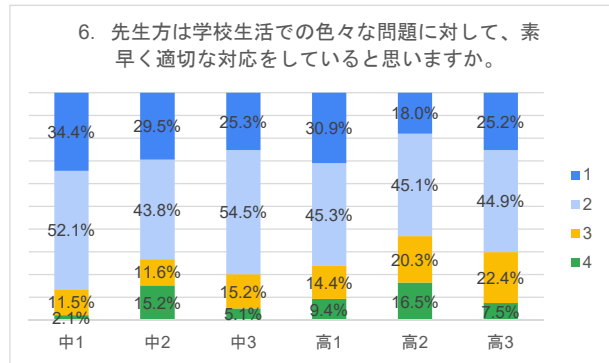
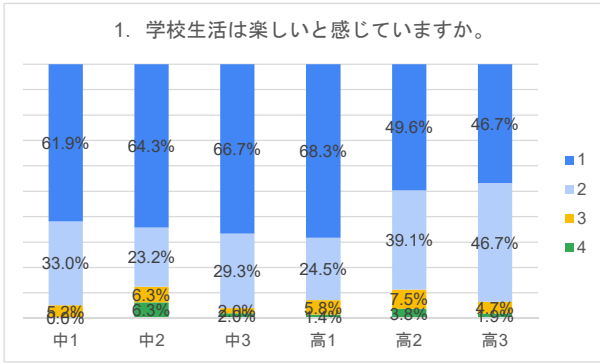
2021年度 関西大学中等部・高等部 自己点検・評価アンケート結果（生徒用）

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

NO	設問	中等部全体				高等部全体			
		1	2	3	4	1	2	3	4
1	学校生活は楽しいと感じていますか。	64.3%	28.2%	4.5%	2.9%	55.7%	35.9%	6.1%	2.4%
2	この学校に入学して良かったと思いますか。	59.3%	31.6%	5.9%	3.3%	48.5%	38.5%	8.4%	4.5%
3	本校の教育方針を理解していますか。	26.4%	57.3%	10.1%	6.2%	24.8%	50.7%	16.1%	8.4%
4	登下校時を中心に、関大中高等部生としての自覚をもって行動していますか。	42.9%	47.7%	5.8%	3.6%	46.4%	43.5%	7.1%	2.9%
5	事故、事件、災害が発生したとき、どのように行動すればよいのか、指示を受けていますか。	36.8%	38.4%	16.0%	8.8%	27.4%	38.5%	21.4%	12.7%
6	先生方は学校生活での色々な問題に対して、素早く適切な対応をしていると思いますか。	29.6%	49.8%	12.7%	7.8%	24.8%	45.1%	18.7%	11.3%
7	「情報」「総合」等の授業を通じて、情報に関する倫理やその保護について理解していますか。	40.3%	51.0%	5.8%	2.9%	39.2%	52.4%	6.1%	2.4%
8	関西大学やその他の大学に関する情報が増え、大学進学モチベーションが上がってきましたか。	32.9%	45.0%	15.3%	6.8%	43.3%	42.2%	10.3%	4.2%
9	授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか。	36.5%	50.2%	10.4%	2.9%	27.7%	55.4%	13.2%	3.7%
10	将来やりたいことが見つかると、それに向けて逆算をして準備を始めていますか。	18.2%	32.1%	30.5%	19.2%	25.4%	38.9%	24.1%	11.6%
11	模擬試験後の面談等によって、自らの学力分析ができ、その後の学習に役立っていますか。	23.1%	53.6%	15.9%	7.5%	25.1%	52.6%	18.5%	3.7%
12	補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。	28.9%	44.8%	15.6%	10.7%	27.4%	45.4%	16.9%	10.3%
13	課題や提出物にまじめに取り組み、家庭学習習慣は身につけていると思いますか。	39.3%	42.2%	14.3%	4.2%	33.2%	49.1%	13.5%	4.2%
14	自分の学習状況を保護者も把握していると思いますか。	44.8%	38.6%	13.0%	3.6%	45.8%	36.0%	13.0%	5.3%
15	生徒としてのマナーやモラル向上のための指導によって、規範意識が昨年より高まったと思いますか。	39.6%	49.7%	8.8%	1.9%	33.4%	45.1%	15.9%	5.6%
16	いじめを許さない指導が日常的に行われていると思いますか。	48.2%	34.5%	12.4%	4.9%	36.4%	39.1%	15.6%	9.0%
17	他者への貢献や人権意識を高める指導が日常的に行われていると思いますか。	41.5%	45.8%	9.2%	3.6%	30.3%	47.5%	15.3%	6.9%
18	先生とのコミュニケーションが十分にとれ、先生の指導の意図を理解していますか。	38.1%	42.7%	14.0%	5.2%	33.3%	46.6%	16.9%	3.2%
19	基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの仕方を学びましたか。	43.3%	42.3%	10.1%	4.2%	34.8%	47.2%	13.2%	4.7%
20	各学校行事の意義や目的を理解しており、行事を経験する中で自分の成長を感じますか。	46.3%	43.3%	7.5%	2.9%	41.1%	41.1%	13.5%	4.2%
21	異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していく力がついてきましたか。	42.0%	43.6%	9.4%	4.9%	34.7%	47.4%	15.1%	2.9%
22	高大(あるいは中大、中高の学校同士)の教育連携があると思いますか。	33.4%	41.6%	18.5%	6.5%	33.0%	41.7%	16.6%	8.7%
23	悩みが生じたときに、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか。	37.0%	40.3%	14.0%	8.8%	31.0%	46.8%	13.8%	8.5%
24	工夫された授業や、おもしろい実験などが取り入れられていると思いますか。	51.6%	33.3%	8.5%	6.5%	29.3%	45.4%	18.5%	6.9%

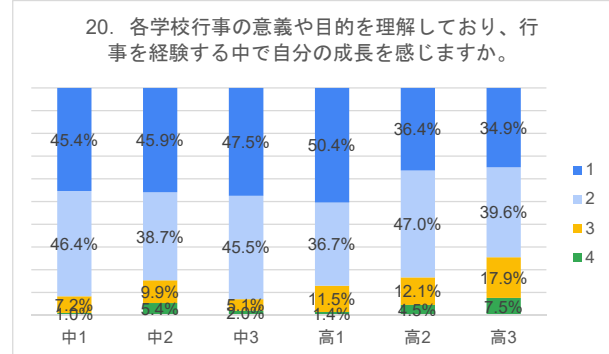
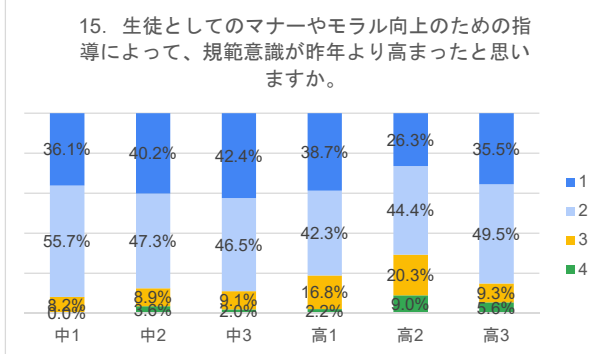
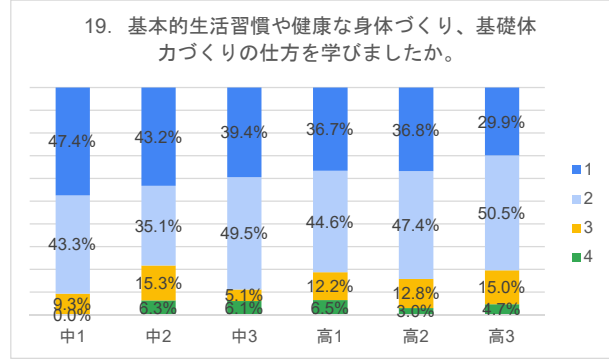
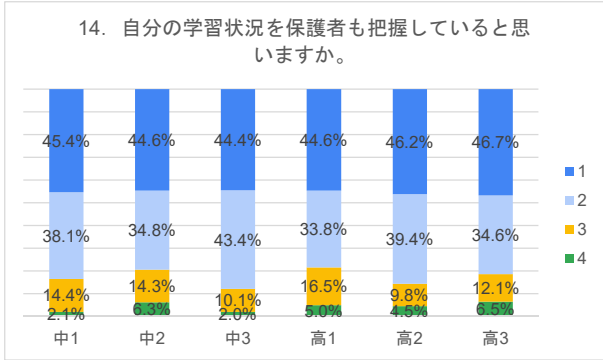
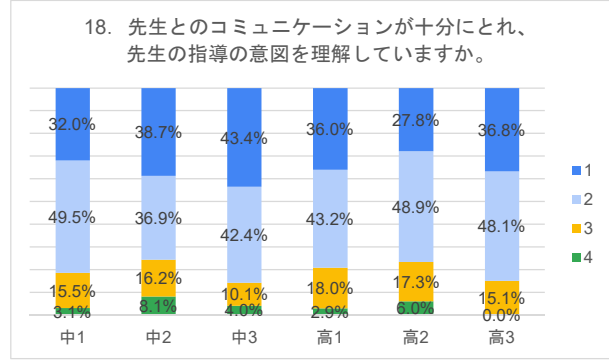
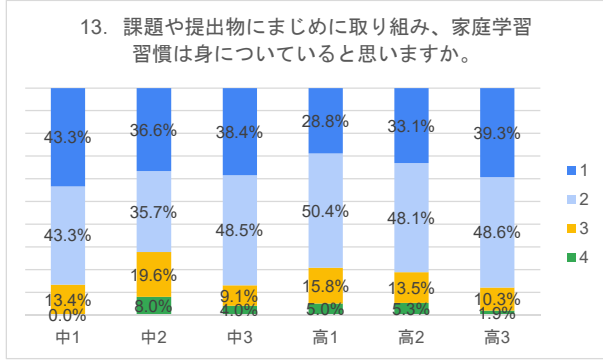
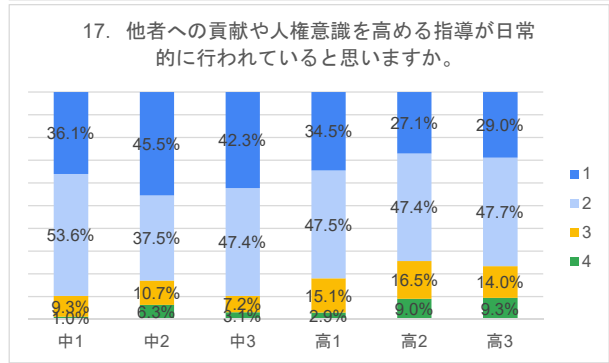
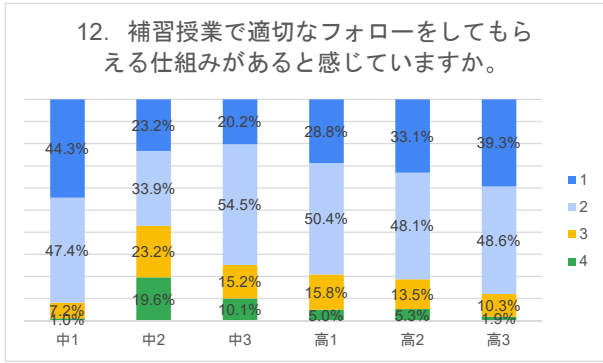
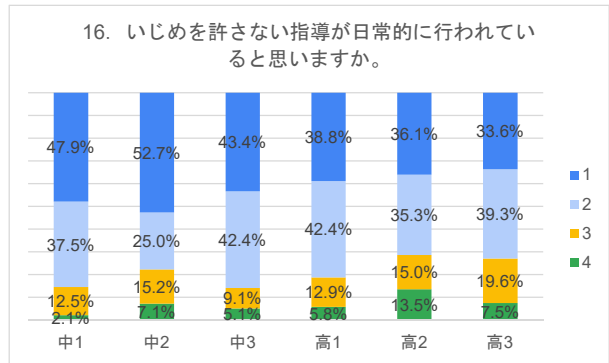
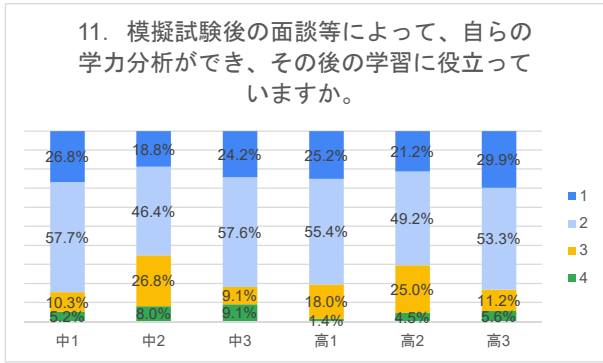
生徒集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない



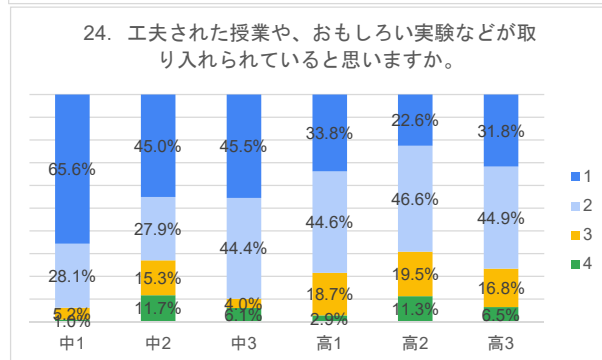
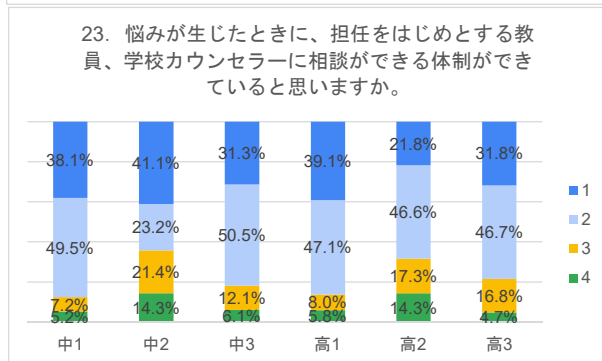
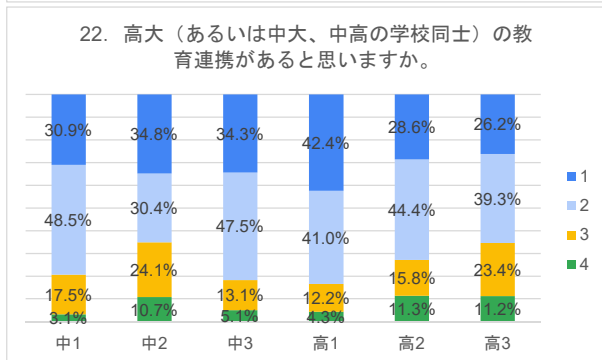
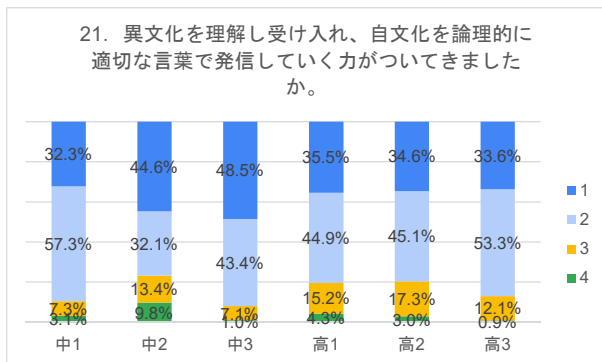
生徒集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない



生徒集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない



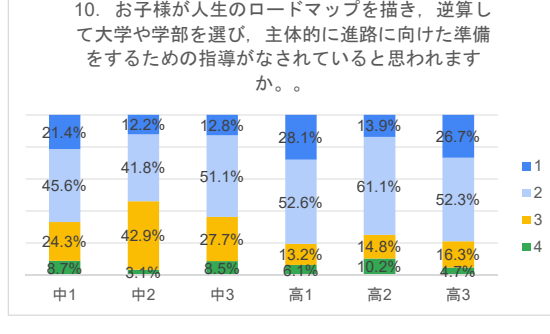
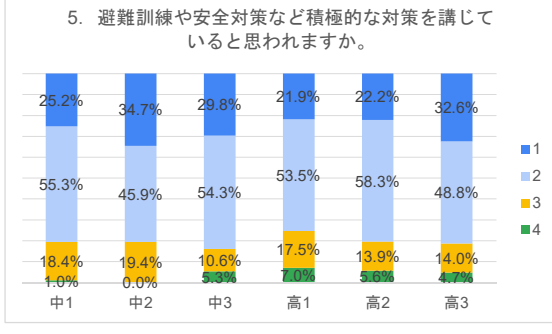
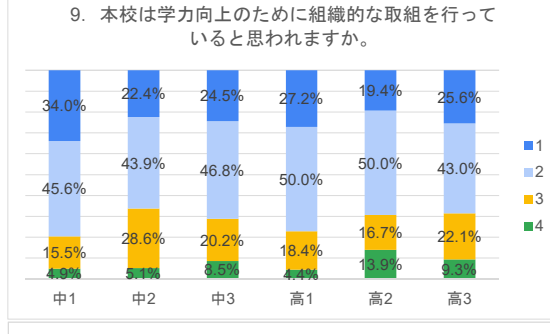
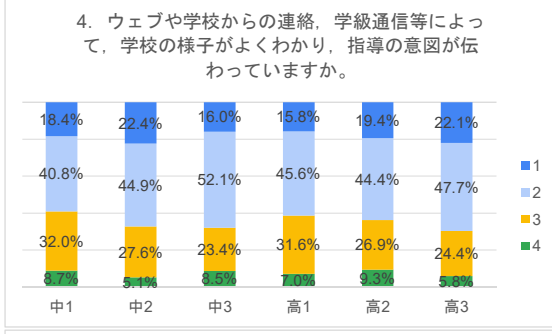
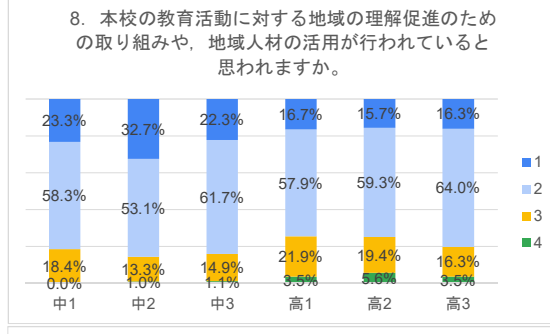
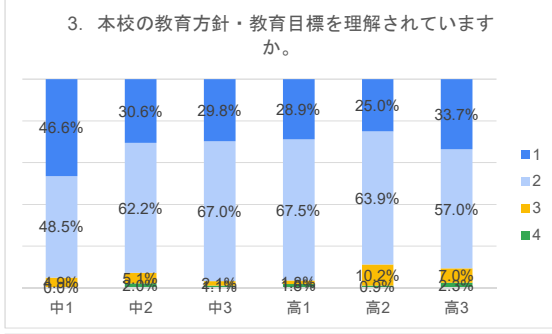
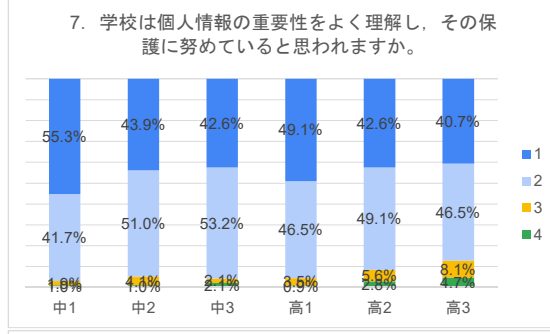
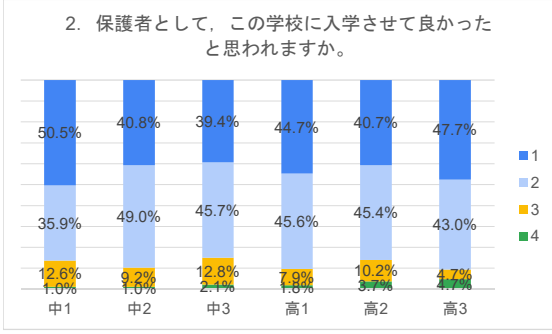
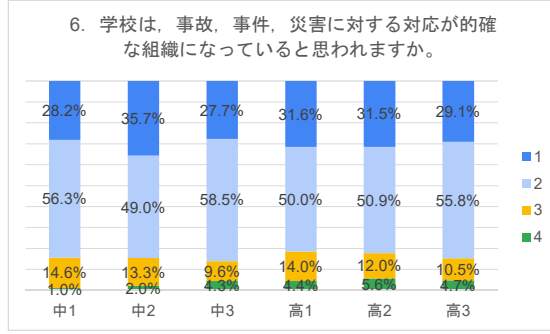
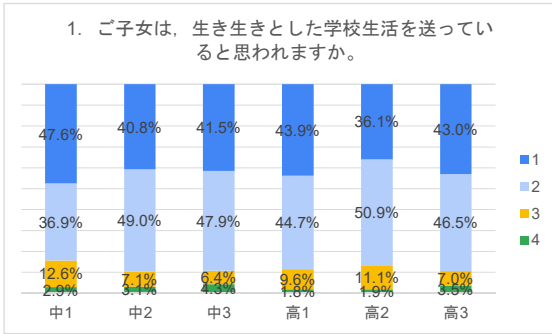
2021年度 関西大学中部・高等部 自己点検・評価アンケート結果（保護者用）

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

NO	設問	中部部全体				高等部全体			
		1	2	3	4	1	2	3	4
1	ご子女は、生き生きとした学校生活を送っていると思われませんか。	43.4%	44.4%	8.8%	3.4%	40.9%	47.4%	9.4%	2.3%
2	保護者として、この学校に入学させて良かったと思われませんか。	43.7%	43.4%	11.5%	1.4%	44.2%	44.8%	7.8%	3.2%
3	本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。	35.9%	59.0%	4.1%	1.0%	28.9%	63.3%	6.2%	1.6%
4	ウェブや学校からの連絡、学級通信等によって、学校の様子がよくわかり、指導の意図が伝わっていますか。	19.0%	45.8%	27.8%	7.5%	18.8%	45.8%	27.9%	7.5%
5	避難訓練や安全対策など積極的な対策を講じていると思われませんか。	29.8%	51.9%	16.3%	2.0%	25.0%	53.9%	15.3%	5.8%
6	学校は、事故、事件、災害に対する対応が的確な組織になっていると思われませんか。	30.5%	54.6%	12.5%	2.4%	30.8%	51.9%	12.3%	4.9%
7	学校は個人情報の重要性をよく理解し、その保護に努めていると思われませんか。	47.5%	48.5%	2.7%	1.4%	44.5%	47.4%	5.5%	2.6%
8	本校の教育活動に対する地域の理解促進のための取り組みや、地域人材の活用が行われていると思われませんか。	26.1%	57.6%	15.6%	0.7%	16.2%	60.1%	19.5%	4.2%
9	本校は学力向上のために組織的な取組を行っていると思われませんか。	27.1%	45.4%	21.4%	6.1%	24.0%	48.1%	18.8%	9.1%
10	お子様が人生のロードマップを描き、逆算して大学や学部を選び、主体的に進路に向けた準備をするための指導がなされていると思われませんか。	15.6%	46.1%	31.5%	6.8%	22.7%	55.5%	14.6%	7.1%
11	生徒が主体的に対話的な深い学びを行い、思考力を高めるための授業作りを行っていると思われませんか。	23.1%	56.9%	15.3%	4.7%	18.5%	59.1%	17.5%	4.9%
12	学校は生徒個々の学力とその推移を的確に把握していると思われませんか。	32.5%	51.9%	11.5%	4.1%	26.6%	57.8%	10.1%	5.5%
13	学校は教室のディスプレイやPCなど充実したICT環境を活用し、授業内容の工夫に取り組んでいると思われませんか。	43.7%	42.0%	10.2%	4.1%	43.5%	47.4%	7.5%	1.6%
14	習熟度の遅れた生徒へのフォローや補習授業の取組が十分に行われていると思われませんか。	16.3%	44.4%	24.7%	14.6%	12.0%	50.6%	24.0%	13.3%
15	学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思われませんか。	23.7%	45.1%	23.7%	7.5%	19.5%	53.6%	19.2%	7.8%
16	学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組が行われていると思われませんか。	31.2%	58.3%	7.8%	2.7%	26.6%	59.4%	10.1%	3.9%
17	いじめを許さない学校・学級作りに積極的に取り組んでいると思われませんか。	28.8%	61.0%	7.1%	3.1%	23.4%	61.7%	12.0%	2.9%
18	お子さまの日常的な言動の中に、社会や地域、他者に対する貢献の意識が見られるようになったと思われませんか。	19.3%	51.9%	23.7%	5.1%	20.1%	54.2%	21.8%	3.9%
19	本校では、他者の人権を尊重する教育が十分に行われていると思われませんか。	22.0%	62.7%	12.5%	2.7%	21.4%	63.0%	10.7%	4.9%
20	本校は、生徒の学校生活や家庭生活について保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っていると思われませんか。	19.3%	48.1%	25.4%	7.1%	15.9%	51.9%	23.1%	9.1%
21	基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導が行われていると思われませんか。	19.7%	62.4%	15.3%	2.7%	14.6%	55.2%	25.6%	4.5%
22	各学校行事の意義や目的を生徒に理解させ、行事を経るごとに生徒が成長していくための指導がなされていると思われませんか。	26.4%	60.3%	11.2%	2.0%	19.2%	55.5%	18.5%	6.8%
23	異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していくための教育が充実していると思われませんか。	29.8%	53.2%	15.9%	1.0%	22.4%	61.0%	12.0%	4.5%
24	高大（あるいは中大、中高の学校同士）の教育連携が積極的に行われていると思われませんか。	22.4%	46.4%	25.4%	5.8%	24.4%	52.3%	18.8%	4.5%
25	初等部と中部部・高等部との連携が十分に行われていると思われませんか。	14.2%	39.0%	34.6%	12.2%	11.7%	50.6%	25.3%	12.3%
26	子どもに何らかの問題が生じたとき、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思われませんか。	25.4%	56.6%	13.9%	4.1%	21.1%	56.8%	17.2%	4.9%
27	本校の教員は、教材研究や指導力の向上に努めようとしていると思われませんか。	26.1%	53.6%	15.3%	5.1%	23.1%	53.9%	17.2%	5.8%

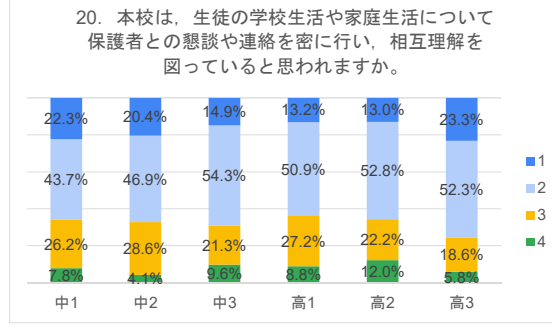
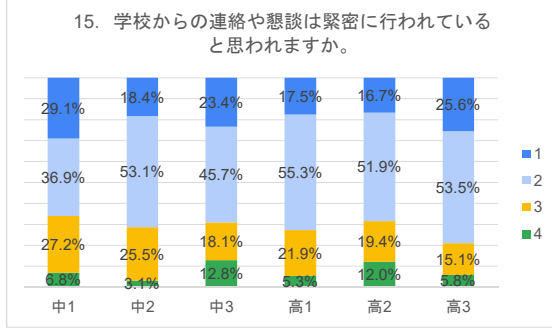
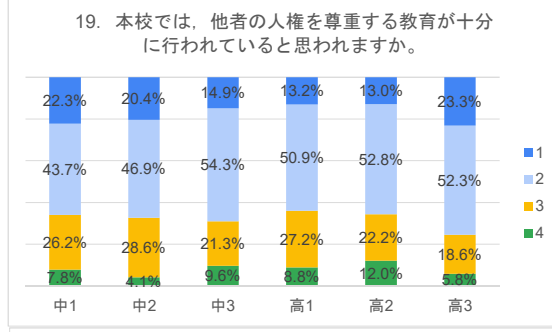
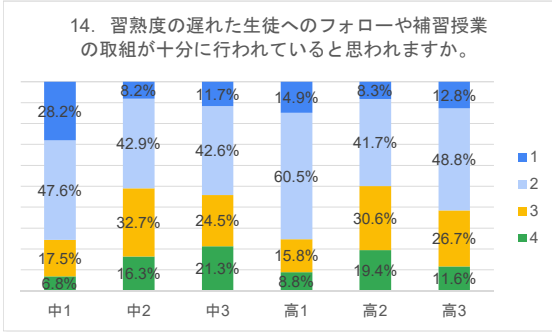
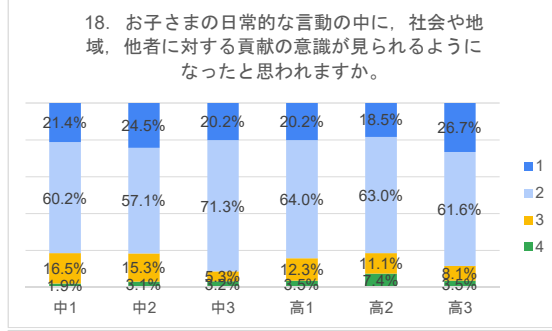
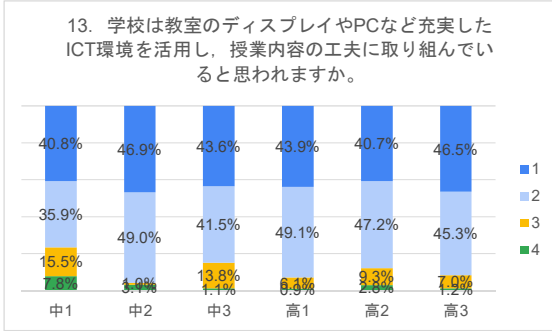
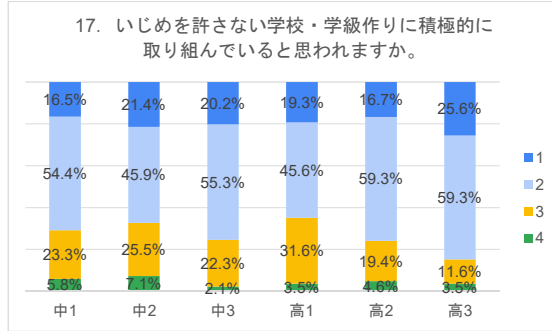
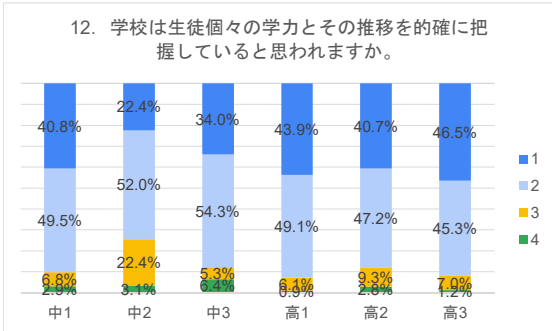
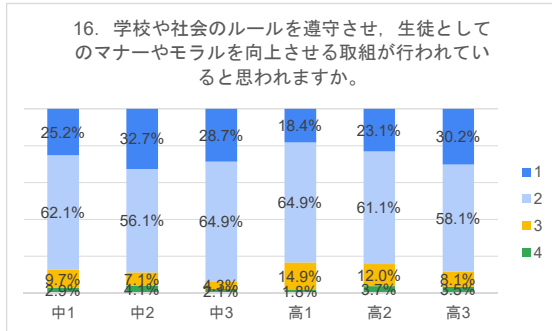
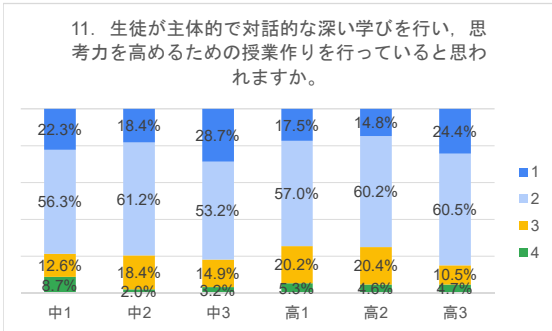
保護者集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない



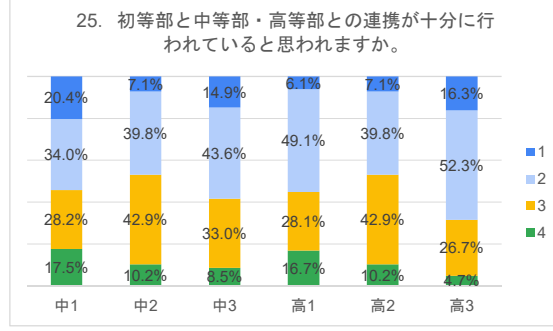
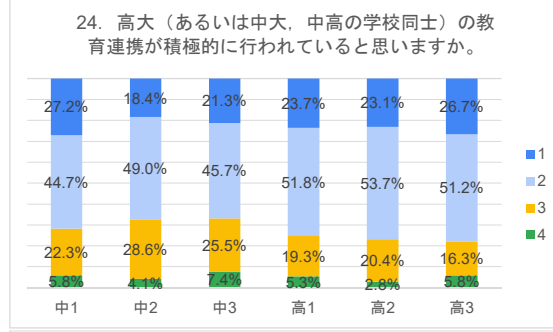
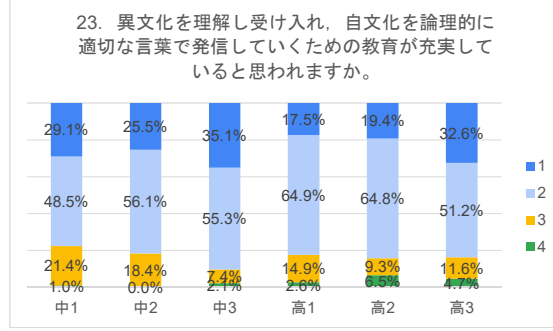
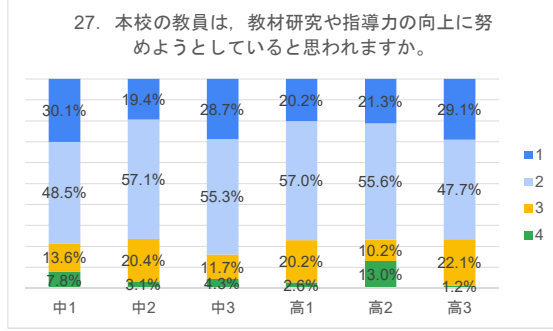
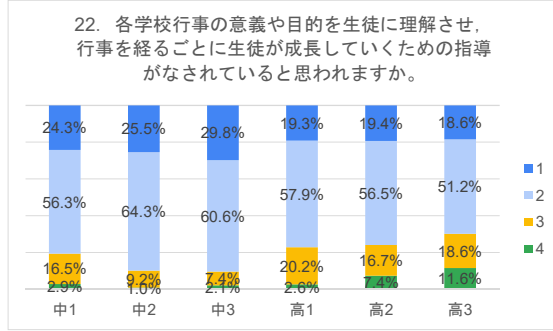
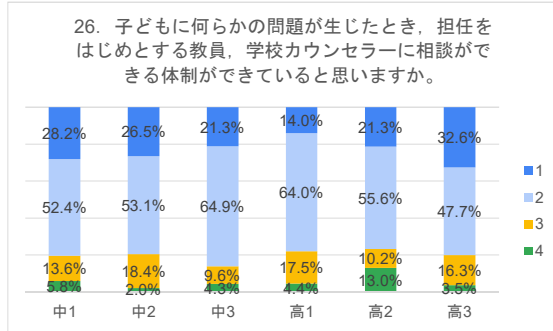
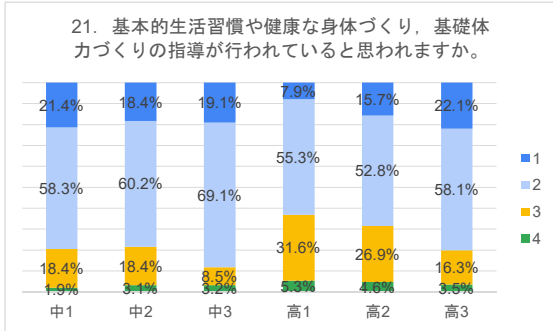
保護者集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない



保護者集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない



2021年度 関西大学中等部・高等部 自己点検・評価アンケート結果（教員用）

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

NO	設問	1	2	3	4
1	本校の生徒は充実した学校生活を楽しんでいる。	12.5%	62.5%	25.0%	0.0%
2	本校に入学した生徒・保護者の満足度は高い。	12.5%	50.0%	37.5%	0.0%
3	建学の精神に基づく教育方針・教育目標は、教職員・保護者などの関係者によく浸透している。	6.3%	31.3%	40.6%	21.9%
4	職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。	3.1%	6.3%	34.4%	56.3%
5	教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。	18.8%	28.1%	28.1%	25.0%
6	管理職と教員との間で相互理解と信頼関係を築いている。	6.3%	12.5%	25.0%	56.3%
7	教員と事務職員とで相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。	34.4%	46.9%	15.6%	3.1%
8	ウェブや学級通信等を利用して、本校の学校生活に関するきめ細かい情報提供を心がけている。	15.6%	56.3%	25.0%	3.1%
9	警察や消防署と連携し、避難訓練や安全講習会を開くなどの安全対策を講じている。	6.5%	45.2%	29.0%	19.4%
10	事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっている。	6.3%	34.4%	37.5%	21.9%
11	生徒や教職員の個人情報管理が適切に行われている。	28.1%	43.8%	21.9%	6.3%
12	本校の教育活動に対する地域の理解促進のための取り組みや、地域人材の活用を行っている。	22.6%	45.2%	25.8%	6.5%
13	学力向上のための組織的な取組を行っている。	12.5%	34.4%	34.4%	18.8%
14	生徒が人生のロードマップを描き、逆算して大学や学部を選び、主体的に進路に向けた準備をするための組織的な指導がなされている。	15.6%	46.9%	34.4%	3.1%
15	生徒が主体的で対話的な深い学びを行い、思考力を高めるための授業作りを組織的にやっている。	12.9%	38.7%	35.5%	12.9%
16	模擬試験等を活用して学習状況を計画的に把握し、学年集団・個人への効果的な指導体制がとられている。	29.0%	54.8%	16.1%	0.0%
17	液晶ディスプレイやPCなど充実したICT環境を活用し、授業内容の工夫に取り組んでいる。	37.5%	50.0%	12.5%	0.0%
18	学力不足生徒へのフォローのために補習授業や個人指導を行っている。	18.8%	53.1%	28.1%	0.0%
19	学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っている。	28.1%	59.4%	12.5%	0.0%
20	生徒に学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組を行っている。	18.8%	53.1%	28.1%	0.0%
21	いじめの実態把握に努め、生徒が発する危険信号等を見逃さないようにして早期発見に努める体制が整い、学校組織として共有できている。	31.3%	65.6%	3.1%	0.0%
22	授業や学級会活動などを通して地域・社会の現状を知らせ、自主的な社会貢献を促している。	12.5%	46.9%	31.3%	9.4%
23	他者の人権を尊重する教育が計画的に行われている。	18.8%	59.4%	21.9%	0.0%
24	生徒の学校生活や家庭生活について保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っている。	25.0%	65.6%	9.4%	0.0%
25	基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導を行っている。	19.4%	58.1%	22.6%	0.0%
26	各学校行事の意義や目的を生徒が理解しており、行事を経るごとに生徒が成長していくための指導がなされている。	21.9%	34.4%	37.5%	6.3%
27	異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していくための教育が充実している。	21.9%	59.4%	18.8%	0.0%
28	高大あるいは中大、中高の学校間の教育連携が積極的に行われている。	16.1%	45.2%	38.7%	0.0%
29	初等部の授業を見学したり、自らの授業を見てもらったり、初等部の教員と話し合ったりして、初中高連携を図っている。	6.3%	12.5%	43.8%	37.5%
30	生徒・保護者の悩みに対して、教員による相談体制やカウンセリング体制が学校全体として整っている。	12.5%	81.3%	3.1%	3.1%
31	本校は、教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実している。	12.5%	34.4%	31.3%	21.9%
32	教員間で授業を見学し合い、互いに切磋琢磨して授業力を向上させる取り組みをしている。	9.4%	37.5%	37.5%	15.6%

教員集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

<p>1. 本校の生徒は充実した学校生活を楽しんでいる。</p> <p>0.0% 4, 12.5% 25.0% 62.5%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>7. 教員と事務職員とで相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。</p> <p>3.1% 15.6% 34.4% 46.9%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>13. 学力向上のための組織的な取組を行っている。</p> <p>12.5% 18.8% 34.4% 34.4%</p> <p>① ② ③ ④</p>
<p>2. 本校に入学した生徒・保護者の満足度は高い。</p> <p>0.0% 12.5% 37.5% 50.0%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>8. ウェブや学級通信等を利用して、本校の学校生活に関するきめ細かい情報提供を心がけている。</p> <p>3.1% 15.6% 25.0% 56.3%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>14. 生徒が人生のロードマップを描き、逆算して大学や学部を選び、主体的に進路に向けた準備をするための組織的な指導がなされている。</p> <p>3.1% 5, 15.6% 34.4% 46.9%</p> <p>① ② ③ ④</p>
<p>3. 建学の精神に基づく教育方針・教育目標は、教職員・保護者などの関係者によく浸透している。</p> <p>6.3% 21.9% 31.3% 40.6%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>9. 警察や消防署と連携し、避難訓練や安全講習会を開くなどの安全対策を講じている。</p> <p>6.5% 13.4% 29.0% 45.2%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>15. 生徒が主体的で対話的な深い学びを行い、思考力を高めるための授業作りを組織的にしている。</p> <p>12.9% 12.9% 35.5% 38.7%</p> <p>① ② ③ ④</p>
<p>4. 職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。</p> <p>3.1% 6.3% 34.4% 56.3%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>10. 事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっている。</p> <p>6.3% 21.9% 37.5% 34.4%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>16. 模擬試験等を活用して学習状況を計画的に把握し、学年集団・個人への効果的な指導体制がとられている。</p> <p>16.1% 0.0% 29.0% 54.8%</p> <p>① ② ③ ④</p>
<p>5. 教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。</p> <p>25.0% 18.8% 28.1% 28.1%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>11. 生徒や教職員の個人情報管理が適切に行われている。</p> <p>6.3% 21.9% 28.1% 43.8%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>17. 液晶ディスプレイやPCなど充実したICT環境を活用し、授業内容の工夫に取り組んでいる。</p> <p>12.9% 0.0% 37.5% 50.0%</p> <p>① ② ③ ④</p>
<p>6. 管理職と教員との間で相互理解と信頼関係を築いている。</p> <p>6.3% 12.5% 25.0% 56.3%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>12. 本校の教育活動に対する地域の理解促進のための取り組みや、地域人材の活用を行っている。</p> <p>6.5% 25.8% 22.6% 45.2%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>18. 学力不足生徒へのフォローのために補習授業や個人指導を行っている。</p> <p>0.0% 18.8% 28.1% 53.1%</p> <p>① ② ③ ④</p>

教員集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

<p>19. 学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っている。</p>	<p>25. 基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導を行っている。</p>	<p>31. 本校は、教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実している。</p>
<p>20. 生徒に学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組を行っている。</p>	<p>26. 各学校行事の意義や目的を生徒が理解しており、行事を経るごとに生徒が成長していくための指導がなされている。</p>	<p>32. 教員間で授業を見学し合い、互いに切磋琢磨して授業力を向上させる取り組みをしている。</p>
<p>21. いじめの実態把握に努め、生徒が発する危険信号等を見逃さないようにして早期発見に努める体制が整い、学校組織として共有できている。</p>	<p>27. 異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していくための教育が充実している。</p>	
<p>22. 授業や学級会活動などを通して地域・社会の現状を知らせ、自主的な社会貢献を促している。</p>	<p>28. 高大あるいは中大、中高の学校間の教育連携が積極的に行われている。</p>	
<p>23. 他人の人権を尊重する教育が計画的に行われている。</p>	<p>29. 初等部の授業を見学したり、自らの授業を見てもらったり、初等部の教員と話し合ったりして、初中高連携を図っている。</p>	
<p>24. 生徒の学校生活や家庭生活について保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っている。</p>	<p>30. 生徒・保護者の悩みに対して、教員による相談体制やカウンセリング体制が学校全体として整っている。</p>	